スズメバチハンター

完全防護 一気の勝負

日が沈んだのを見計らって，小屋の扉を静かに開けた。目の前に現れたのは，つぼのようなキイロスズメバチの巣。薄茶色の貝殻を折り重ねたような不思議な模様と，あまりの大きさに言葉を失う。外敵を警戒していた働きバチたちが次々に飛び出してきた。ハチは黒い物を狙う習性があるという。一瞬く間にカメラはハチで覆われた。

１０月１日，鹿児島市本名町のハチの巣駆除業者，野村功策さん（54）の作業に同行した。

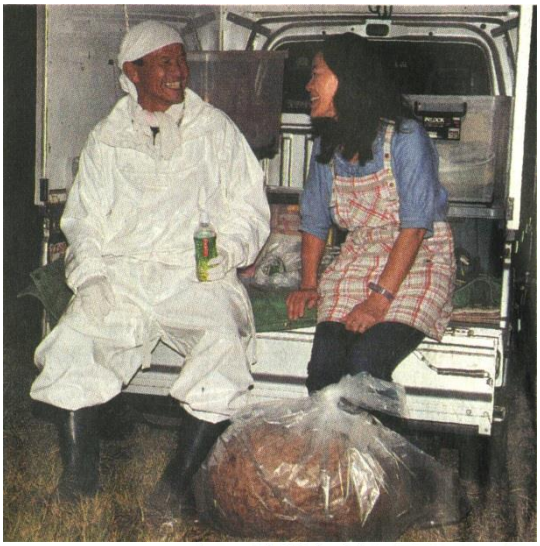
スズメバチは全身を覆った防護服の上からでも，鋭く長い針で刺してくる。隣では野村さんが淡々と作業をこなしていた。巣をアルコール入りの袋で一気に覆い，ノコギリで根元を切り落とす。「オッケー」。わずか２分ほどで現場を後にした。簡単そうに見えるが，刺されれば死に至る危険もある作業。野村さんは「発見したら自分で駆除しようとせず，業者に任せてほしい」と話す。

本業は運送業。１３年前から妻のまゆみさん（49）とハチの駆除を手掛ける。ミツバチのけなげな姿に引かれたのがきっかけだった。「ハチが好きなんです。本来は害虫を駆除する益虫。人間と共存していけるはずですけど」。複雑な思いを抱きながらスズメバチの駆除に飛び回る。

スズメバチの動きが活発になるのは夏から秋。「ハチ好き」の野村さんは殺虫剤をほとんど使わない。「スズメハチバンターのむら」＝０９９（２９４）２６０７。

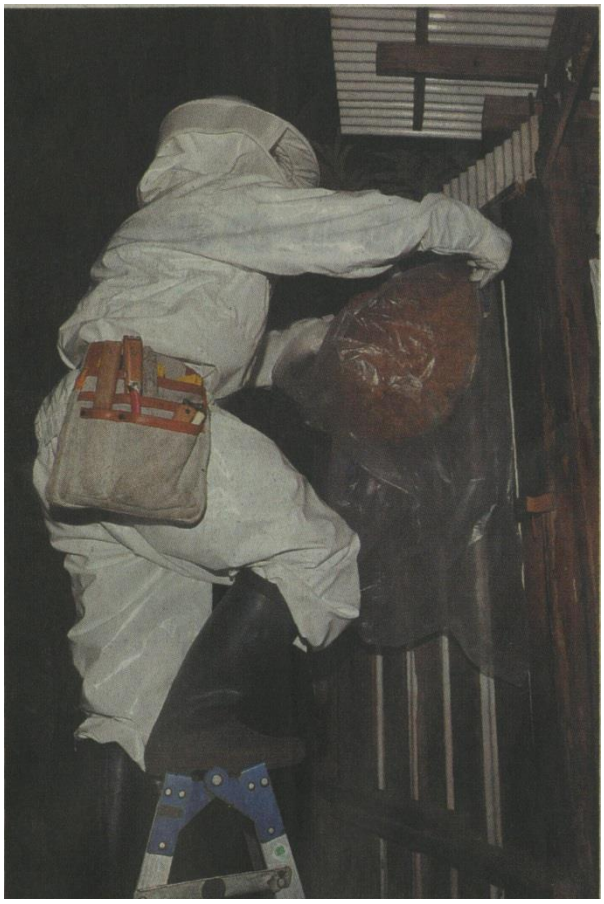
小屋の扉にできた巣。「ブーン」という羽音が鳴り、無数のスズメバチが容赦なく襲いかかってくる ＝1日、鹿児島市岡之原町

全身を覆う防護服はハチが止まりにくい特殊構造。まゆみさんに手伝ってもらって身につける



短い時間ながら緊張する作業を終えて、夫婦でホッとひと息。笑顔がこぼれる

こちらをにらむように穴から顔をのぞかせた。中には親バチ約700匹がいる



巣を落としたり、ハチが逃げたりしないよう一気に袋をかける

平成２５年１０月７日（月）／南日本新聞　１４面特集